

テーマ：2013年4-6月期GDP予測（最終版）
発表日：2013年8月8日（木）
～前期比年率+3.4%を予想。民間内需、外需、公需のバランスが取れた高成長に～
第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 国際収支統計等を反映し、予測値を微修正

2013年4-6月期の実質GDP成長率（8月12日公表予定）を前期比年率+3.4%（前期比+0.8%）と予測する。当社は、7月30日の段階で前期比年率+3.5%（前期比+0.9%）を予想していたが、その後公表された経済指標の結果を反映し、予測値を若干下方修正する。

本日公表された2013年6月分の国際収支統計の結果を反映させたことで、輸出の予測値を前期比+2.9%（従来予測値：同+3.3%）、輸入の予測値を前期比+0.8%（従来予測値：同+1.1%）にそれぞれ下方修正した。筆者の想定よりも6月のサービス輸出入が下振れたことが影響している。輸出入とも下方修正だが、輸出の下振れ幅の方が若干大きかったため、外需寄与度の予測値は僅かに下方修正となった。また、住宅投資も、7月31日に公表された住宅着工統計の結果を受けて、前期比+0.9%（従来予測値：同+1.1%）に若干下方修正した。なお、個人消費については、8月2日に公表された6月分の家計消費状況調査の結果を反映したが、予測値（前期比+0.5%）に変更はない。これらを反映した結果、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.4%と予測する（従来予測値：同+3.5%）。

4-6月期のGDPは、1-3月期が前期比年率+4.1%もの高成長だった後にもかかわらず高い成長を続けたとみられる。①円安による輸出押し上げ、②消費の好調持続、③設備投資の持ち直し、④緊急経済対策効果の顕在化が高成長の背景にある。出遅れていた設備投資が増加に転じるなど、需要項目別に見ても特に弱いものは見当たらない。民間内需、外需、公需のバランスの取れた高成長となる可能性が高い。

（需要項目ごとの予測値の詳細と解説は、Economic Indicators「2013年4-6月期GDP予測」（7月30日発行）をご参照ください）

2013年4-6月期GDP予測

	(%)
実質GDP	0.8
(前期比年率)	3.4
内需寄与度	0.5
(うち民需)	0.3
(うち公需)	0.2
外需寄与度	0.3
民間最終消費支出	0.5
民間住宅	0.9
民間企業設備	1.3
民間在庫品増加(寄与度)	▲ 0.2
政府最終消費支出	0.3
公的固定資本形成	2.3
財貨・サービスの輸出	2.9
財貨・サービスの輸入	0.8
名目GDP	1.0
(前期比年率)	3.8
GDPデフレーター〔前年比〕	▲ 0.7

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所